



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2017年3・4月
第315号

病院だより第315号 (2017年3・4月号)

発行者

昭和大学藤が丘病院

発行責任者

藤が丘病院長 高橋 寛

編集責任者

広報委員長 原田 浩史

〒227-8501

横浜市青葉区藤が丘 1-30

TEL

045-971-1151



2017年4月 174名の新入職員を迎えました

小児・AYA世代がんセンター開設について

藤が丘病院 小児科 教授 磯山 恵一

平成29年4月、藤が丘病院に「小児・思春期若年成人 (AYA: adolescent and young adult, 16歳から29歳まで) 世代がんセンター」が開設されました。AYA世代には成人に好発するがんに加えて、少なからず小児がんが発生



します。この世代には、白血病などの造血器腫瘍以外に肉腫や脳腫瘍などの小児がんがありますが、成人領域では極めて稀であるため、小児領域の診療科が中心となった治療がより効果的であると考えられています。当院では、一般的な小児がん診療に加えて、AYA世代に発症した小児がん治療の実績があります。また、各成人科においてもがん診療を積極的に行っています。これらの診療実績と、小児がん、成人がんのいずれも受け入れられる大学病院の特徴を生かし、AYA世代の小児がんを更に積極的に受け入れる組織を立ち上げ、小児・AYA世代がんセンターとしました。

小児がんという稀な病気ですが、心や体は小児と成人の移行期である時期の治療を、小児血液がん専門医が中心となり成人のがんを診療する各科と連携して行い、より良い治療と治癒を目指します。小児期に発症しAYA世代を迎えている患者さんの長期フォローアップ、健診もこのセンターの医師が中心となって行います。

AYA世代は、就学・就業の問題、病気の治療が生殖機能に及ぼす影響や晩期合併症、思春期という多感な時期にがん罹患することによるさまざまな精神的ストレス、将来への不安など同世代特有の問題を抱えています。これらに対応するため、精神科医、緩和治療医、生殖医療医、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどからの情報提供および支援の体制を整えます。AYA世代小児がん患者が孤立せず、かつ安心して治療が受けられるような療養環境も整えていきたいと考えています。高校生に対する学習支援などについても積極的に取り組んでまいります。

小児 (0-15歳: 中学生まで)、AYA世代 (16-29歳: 高校生から29歳まで)のがん患者さんの受け入れは、全て当センターが窓口となります。各臓器別成人科での治療が必要と判断した場合には、こちらから各科に診療を依頼していきます。対象の患者さんがおられましたら、小児・AYA世代がんセンターまでご連絡ください。治療に関するご相談やセカンドオピニオン等につきましてもご連絡ください。

小児・AYA世代がんセンター

小児がん治療

AYA世代血液がん治療

AYA世代小児がん治療

血液内科

腫瘍内科・緩和医療科

緩和ケア

AYA世代血液がん (白血病、悪性リンパ腫など)
AYA世代小児がん (横紋筋肉腫等の肉腫、脳腫瘍)



もう一つの学校 藤が丘学級 入学式

神奈川県立横浜南養護学校 藤が丘学級
教諭 麻薙 幹彦

桜の満開には少し早いけれど、春の日差しに恵まれた4月5日。藤が丘病院4階子どもセンター内プレイルームで、藤が丘学級小学部の入学式が行われました。在校生たちの手作りの装飾で飾られたプレイルームに、年度当初のご多忙の中ご臨席いただいた、高橋病院長、伊部看護部長を始め病院スタッフに迎えられ、入学式が始まりました。



今年の新入生は、小児内科入院中の小学部1年生の男子1名。そう、「一人だけの入学式」です。たった一人でも、これからの学校生活の第一歩となる大事な入学式。治療中のため、病院で迎えることになりましたが、あたたかく盛大な式にしようと、病院スタッフのみなさまのご協力のもと、準備をすすめてきました。在校生は春休み中、折り紙や和飾り、お祝いの文字の制作など、会場装飾を担当しました。

校歌斉唱に続いて新入生紹介。新入生のお名前が呼ばれましたが、大勢のご来賓に囲まれ、中央で注目される新入生はただ一人……。緊張もあって照れながらも、そっと手を挙げる姿がとてかわいらしく、みなさまから大きな拍手をいただきました。

高橋病院長からも温かいお祝辞を賜り、新入生は在校生代表の3年生から記念のメダルをかけてもらいました。

病室から式場に出てこれなかった中学生からは、ビデオメッセージをもらいました。全員で「いちねんせいになったら」を歌うころからは、新入生の緊張もほぐれてきました。



そして記念撮影。もう、とびきりの笑顔爆発です！

藤が丘病院子どもセンターには訪問学級があります。平成15年、小児科入院中の保護者からの、「藤が丘病院のこともたちにも学校教育を！」という強い要望を受けて、藤が丘病院、昭和大学が県教育委員会に働きかけ、平成16年4月、小児外科プレイルームをお借りしてスタートしました。

正式には「神奈川県立横浜南養護学校 藤が丘学級」という名称です。県立横浜南養護学校は、横浜市南区にある「神奈川県立子ども医療センター」の中に本校があり、藤が丘学級は横浜南養護学校の施設訪問学級(小学部・中学部)となります。常駐教員のほか、本校から中学部の専科教員が交代で訪問し、授業を担当しています。在籍する児童・生徒は、現在小学生3名、中学生2名です。子どもセンターで比較的長期(およそ1か月以上を目安)の入院治療が見込まれる小中学生が、入院期間中、横浜南養護学校に転籍して勉強します。退院後は地元校(前籍校)に戻ります。授業は、子どもたちのその時の体調に応じて、ベッドサイドや、プレイルームの教室で行います。退院の時、地元の学校に戻って戸惑わないように、地元の学校の進度に合わせ、教科書を使い授業をすすめます。



ところで、入院中の学習で難しいことがあります。

一つは、理科の火を使う実験や飼育・観察、家庭科の調理、体育の実技など、安全・衛生上病棟内で実施できない内容です。これらは、学習支援動画など視聴覚教材の映像を使って補います。

もう一つが、同学年のともだちとの話し合いや意見交換です。学級の授業は教員と子どもが1対1になることが多いので、充実している面もありますが、反面、同学年のともだちの意見や考えを聞く機会がほとんどありません。これらの状況を改善するために、県立横浜南養護学校では昨年度から、ICT機器を整備し、ウェブ会議システムを使って、藤が丘学級と子ども医療センターの本校をつなぐ試みを始めました。現在は、本校の行事や、中学生の理科の実験の様子をインターネット中継し、藤が丘病院の病室などで視聴しています。藤が丘学級がLTE回線を使用しているためか、まだ通信の不安定さがあり、音声途切れたり画像が乱れたりすることもあります。今後はこのシステムを活用し、同じ昭和大学の訪問学級として



は兄貴分に
あたる、旗の
台の小児科
院内学級「さ
いかち学級」
とつないで、
お互いに情
報交換したり、

外泊中の児童・生徒の自宅と学級をつないで、外泊期間中の学習を補ったり、地元の学校とつないで、退院の時に復学しやすい環境づくりをしたいと考えています。

大きな病院の中の小さな学級ですが、藤が丘病院入院中の子どもたちの学習を保障する特別支援学校として、これからも藤が丘病院と協力して、子どもたちの笑顔と元気のために努力してまいります。

言語聴覚療法室のご紹介

リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター
言語聴覚療法士 山上裕子

リハビリテーション病院の言語聴覚療法室(以下ST室)には、この4月より5名の言語聴覚療法士が勤務しています。これは平成2年の開院以来、最も多い人数です。言語聴覚療法は、コミュニケーションに支障を来している方に対して介入を行います。たとえば、聴く・話す・読む・書くといった言語の働きが障害される失語症の方や、唇や舌が動かしにくいために発話が伝わりにくい構音障害の方などです。また、食べたり飲んだりすることが困難な、いわゆる嚥下障害の方に対しても介入を行っています。練習を通じて食事に必要な運動機能の回復を目指すのはもちろん、最適な姿勢や食形態、環境などについて、医師・理学療法士・作業療法士・看護師、栄養士とチームで協力しながら進めていくプロセスは、回復期病棟のあるリハビリ病院ならではの特徴です。患者さんそれぞれが退院後もその人らしい生活を送れるよう、ST室一同、これからも努力を続けてまいります。



子どもたちの笑顔のために

藤が丘病院こどもセンター 看護師 佐藤 眞衣子

こどもセンターは単に疾病を治すだけでなく、ご家族とともに子ども自身を守る科と位置づけています。当院は横浜市小児がん連携病院であり、血液疾患や小児がん患児はもとより、腎臓泌尿器系疾患から内分泌疾患、感染症疾患など、様々な疾患をもつ子どもが入院しています。病気という困難な状況に直面している子どもと家族のニーズを捉え、日々一人ひとりにあったケアを考え看護しています。院内学級制度や病児保育もあり、成長発達を促し、子どもの不安や緊張がほぐれ、少しでも楽しく過ごせるように季節ごとにレクリエーションを開催しています。子どもたちの笑顔と元気になっていく姿に、スタッフもやりがいを感じています。子どもやご家族、医師や他職種との信頼関係を大切に、笑顔と温かい心で寄り添い、より良い未来に向かえるよう、スタッフ一丸となって努めてまいります。



藤が丘病院初期臨床研修修了式が開催されました

3月24日(金)午前、昭和大学藤が丘病院B棟6階講堂にて、藤が丘病院初期臨床研修修了式が開催されました。昭和大学附属病院全体の修了式に加えて、



一昨年より藤が丘病院独自の修了式を開催しています。今年も各診療科の先生方や、一年次の初期臨床研修医が研修修了者の門出を祝って頂くことができました。

修了式では高橋病院長の祝辞に続き、市川研修管理委員長より修了者へ修了証と記念品が授与されました。修了者から2年間の研修の思い出や4月からの抱負などを語って頂いた後、後輩の初期臨床研修医より花束が手渡され、盛況の内に閉会しました。

スキルアップセミナー・ベーシックコースが開催されました

4月9日(日)、「テルモメディカルプラネックス」(神奈川県足柄上郡)にて、初期臨床研修医・歯科研修医・薬剤師レジデントを対象としたスキルアップセミナー・ベーシックコースが開催されました。今回は、上級医師にインストラクターとしてフォローして頂き、初期臨床研修医2年次を各チームに1名ずつ配置し、2年次の初期臨床研修医が1年次を指導する形式で充実したセミナーを行うことができました。実際に現場で使用する医療機器や本格的なシュミレーターなどを用いての実践的な手技講習は、参加者から大変好評でした。セミナー終了後は高橋院長より参加者へ修了証、インストラクターの先生に感謝状がそれぞれ授与されました。

なお、スキルアップセミナーは秋に、研修医一年次・二年次を対象とし外科系手技を中心としたアドバンスコースを行う予定です。



174名の新入職員を迎えました

藤が丘病院、藤が丘リハビリテーション病院では、4月から看護師118名をはじめとする新入職員151名と臨床研修医23名の計174名のフレッシュなスタッフを迎えました。4月1日(土)午前にも明治神宮会館で行われた昭和大学新入職員入職式終了後、臨床研修医旗の台校舎へ、それ以外の職員は藤が丘病院に場所を移して7日(金)までオリエンテーションが行われました。4月6日(木)にはC棟講堂で全職種合同オリエンテーションが行われ、接遇・マナー、院内感染、医療安全と青葉消防署による防災についての講義が行われました。



診療統計 2017年2月・3月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2017年2月	2017年3月	2017年2月	2017年3月
外来患者数	26,698人 (1,160.8人)	29,345人 (1,128.6人)	3,897人 (169.4人)	4,229人 (162.7人)
入院患者数	14,880人 (531.4人)	16,016人 (500.5人)	5,010人 (178.9人)	5,526人 (178.3人)
紹介率	81.2%	86.3%	72.5%	68.2%
逆紹介率	67.8%	78.5%	64.1%	84.8%

《広報委員会委員》

原田 浩史	池田 裕一	佐々木 春明	市川 度	小岩 文彦	川手 信行
芳賀 ひろみ	辻本 さなえ	猪股 里美	岩城 馨	鈴木 絢子	下田 遥菜
岩井 譜憲	大塚 凌	高橋 良治	(順不同)		